



STOP! SNSでの誹謗中傷 「#この指とめよう」

令和二年五月二十三日
プロレスラーの木村花さん
(22才)が、会員制交流サイト
(SNS)で中傷を受け、亡くな
りました。あれから、一年。

情報機器の光と影

SNS上では、人々が関心を
もった話題が爆発的に広がりま
す。しかし、人々を喜ばせる内
容だけでなく、人格や存在を否
定する内容もあるのです。これ
らは「表現の自由」の主張では許
されない行為であることを理解
しておかなければなりません。

事例1 木村花さんの場合

彼女は、平成三十一年〜令和
二年に男女六人の共同生活を映
す恋愛リアリティ番組「テラス
ハウス」に出演していました。
この番組を視聴した人々が、彼
女の言動についてSNSでコメ
ントをしました。彼女の人格を
否定するものや、存在すら許さ
ないという内容が一斉に集まり、
連日大炎上しました。SNSで
の誹謗中傷が彼女の自殺の原因
だろうと報道されました。

演出なしと謳われていた
が、ハプニングが起きる環境を
作り出していたとも報道されて
います。真相ははっきりしてい
ませんが、彼女の言動は、起こ
るべくして起きたのかもしれない
せん。しかし、コメントのほと
んどが、彼女自身を責め、彼女
と直接話したこともない人が、
平気で彼女の事を否定する。ス
マホの画面越しに増えていく悪
意に満ちたコメントをみて、つ
い同調コメントを送ってしまっ
た匿名性が、「何を言ってもよい」
という尊大な態度を増幅させ、
無責任な発言となっていくので
しょう。これが影の部分で、誰
でも陥ってしまう可能性を含ん
でいます。

事例2 友達からのLINE

体調不良で初めて高校を休ん
だAさん。休むとクラスの仲間
から取り残されるのではないかと
心配な気持ちを抱えています。
夕方、それほど親しくはな
かったBさんから、心温まるメッ
セージと一日の学級の様子が送
られてきました。Aさんは、学
校を休んでも、クラスメイトと
一緒に過ごした気分を味わい、
翌日元気に高校へ行きました。

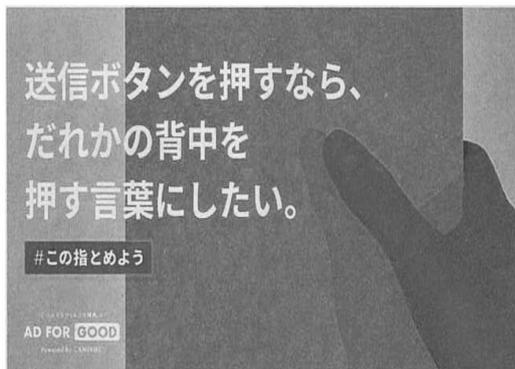
心細い思いをしているクラス
メイトへ心を寄せ、情報機器を
使って、相手を励まし、安心さ
せた事例です。これが光の部分
ではないでしょうか。

人は、自分で考えの違う価値
観に出会うと、不安になり、先
に攻撃して身を守ろうとします。
心の有様で、その度合いも変わ
ります。だからこそ、情報機器
で会話やコメントをする時には、
「ちょっと立ち止まって自分で
考え、自分で判断する」ことが
重要なのです。

背中を押す言葉

木村花さんの死から、SNS
のネガティブな側面を改めて気
づかされたコピーライターの男
性は、SNSを通じた被害を減
らす一助となるよう、一般社団
法人「#この指とめよう」を発足
しました。同法人では、ツイッ
ター上で攻撃的なキーワードが
急増したケースを監視し、学者
やジャーナリストらと協議して、
誹謗中傷にあたる判断すれば、
投稿したアカウントに次のよう
な広告を配信するという。

「送信ボタンを押すなら、だれ
かの背中を押す言葉にしたい。」



(岐阜新聞令和3年5月23日掲載)

SNSには社会を変革するポ
ジティブな力があります。『人
を傷つける投稿を止め、人の背
中を押す言葉を贈りたい』とい
う思いに共感します。
誰もが安心して暮らせるよう、
法の整備と情報モラルの啓発が
進められている今、自分事とし
て捉えることができる感性、人
を励まし、応援する言葉を贈り
あえる行動力を高めていきたい
と思います。